

平成22年 6月18日現在

研究種目： 基盤研究B  
 研究期間： 2006 ～ 2009  
 課題番号： 18320048  
 研究課題名（和文） イギリス初期近代における宗教と演劇文化の歴史的研究  
 研究課題名（英文） A Study of Religious and Theatrical Culture in Early Modern England  
 研究代表者  
 清水 徹郎 (SHIMIZU TETSURO)  
 お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授  
 研究者番号： 60235653

研究成果の概要（和文）： 16世紀末に政治・宗教抗争が激化する下で劇場・印刷文化が発展したが、文芸への政治・宗教の影響の態様は以前想定されたよりも複雑で曖昧なものであることが明らかになってきた。文芸が孕む問題は、単に新旧両信仰の二項対立的図式では割り切れず、複雑・微妙な様相を呈した。カトリック詩人の苦悩にプロテスタント詩人が共感して影響を受ける例もあり、政治・宗教的利害より商業主義との関係が緊急である場合もあった。プロテスタント神学書を多く出版したスイスの印刷業者が、同時に異教的古典詞華集の出版も行い、結果として英国の官能的詩文学の発展に寄与した可能性も見えてきた。

研究成果の概要（英文）： The influence of atrocious religious conflicts in the political world of the late sixteenth-century England on its theatrical and print cultures has proved more intricate and ambivalent than it used to be supposed. Issues raised in the form of literary representation are difficult to classify into the binary opposition of Protestantism and Catholicism. There were some cases in which Protestant poets sympathized with Catholic poets' distress or mental suffering; in other cases, commercial concerns were of a far greater and more immediate relevance. It also seems likely that some Calvinist printers in Switzerland, who were known to have published numerous books on Protestant theology, contributed to the development of erotic literature in England by publishing certain classical anthologies at the same time.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2007年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2008年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2009年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
総計	15,000,000	4,500,000	19,500,000

研究分野： 人文学  
 科研費の分科・細目： 文学・ヨーロッパ語系文学  
 キーワード： 英文学

## 1. 研究開始当初の背景

1980 年前後から隆盛になった文化唯物主義・新歴史主義・ジェンダー論等の影響で、文学・芸術と政治権力との関係が注目されるようになっていたが、英国初期近代の文化的状況を考える上では英国国教会成立後の政治・宗教史的観点の導入も重要である。その枠組みの中で、詩・演劇・散文・大衆文化等の多様な成長の過程をダイナミックに記述する研究の必要性が認められた。

## 2. 研究の目的

16 世紀英国は Henry VIII 以降 Elizabeth I 政権末年まで宗教的対立・政治的動乱が続いたが、その枠組みの中で演劇・詩・散文あるいは印刷文化・劇場文化が成長・発展・普及する例を個別に検証し、その歴史的特徴を記述することが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

演劇・詩・散文の個別テキストの分析を研究組織メンバーで進めるとともに、文芸サークル・出版事情・大学教育・地方の人脈・大衆文化・ロマンス・殉教者伝の演劇化他のテーマごとに分担して調査し、年 4~5 回の研究会会合を開いて調査経過と実績を報告しあい、調査過程で得た知見を共有するとともに、相互の批判を重ねることによって研究方法の客観化に努めた。資料としては、印刷・刊行されている資料の他に、英国各地の図書館・公文書館等に所蔵されている写本・稀観本を多く閲覧する必要があるため、毎年数名の研究分担者・連携研究者が渡英して現地での調査を行った。

## 4. 研究成果

研究組織メンバーごとの成果は多岐にわたるが、主なものは以下の通り。

(1) Thomas Deloney のロマンスにおける聖人表象大衆化の問題を明らかにした(竹村)。

(2) Dido 説話群と Elizabeth 女王カルトとの関係を明らかにした(山田)。(3) 教理問答(catechism)の演劇的応用例を収集した(村井)。(4) John Harinton 訳 *Orlando Furioso* における、社会的事象への allusion の手法について明らかにした(佐藤)。(5) ピューリタンの反劇場論への演劇的反論の手法をシェイクスピア喜劇の例において明らかにした(篠崎)。(6) Henry Chettle における文体模索の過程を検証しその特徴と歴史的位置を明らかにした(由井)。(7) カトリック/プロテスタントという宗派を超えた詩的・文学的想像力の可能性を、カトリック忠君派詩人

等の例を検証して明らかにした(勝山)。

(8) Christopher Marlowe, *Hero and Leander* における祝婚歌の伝統的手法を検証し、Theocritus の影響の可能性を示唆した(清水)。(9) 経済的リベラリズム萌芽期の特徴と問題点を、Shakespeare, *The Merchant of Venice* の例において検証した(前沢)。(10) 中世カトリックの聖人伝・聖人劇を範にしたプロテスタント聖人劇誕生の過程を検証し、演劇と殉教史との微妙な関わり合いを明らかにした(井出)。(11) 匿名パンフレット *Leicester's Commonwealth* の出版・統制戦略を検証し、急進プロテスタント・ミリタリズムと商業主義のとの微妙な関係等を明らかにした(竹村)。(12) Marlowe, *Dido* への Thomas Nashe による加筆の可能性とその背景を考証した(山田)。(13) Marlowe の演劇・牧歌・小叙事詩の共通の典拠として、スイスのカルヴァン派印刷業者による普及版ギリシア詞華集の可能性を仮説として提示した。プロテスタント神学書が大量に輸入される状況の副産物として、ギリシア語の純文学テキストが英国詩人・劇作家に影響を与えた可能性を示すものである。以前の研究者たちの推測によれば、16 世紀の英国詩人・劇作家たちにおいてはギリシア文学からの直接的影響はほとんどなかったとするものが一般的であったが、本研究計画の調査によって次第に明らかになってきたのは、少なくとも大学修士課程レベルにまで進んだ Marlowe などの詩人においては、1560 年代以降大量に英国に流入した形跡のある普及版ギリシア語テキストで古代ギリシアの詩を直接に読み、少なからぬ影響を受けていた可能性があるということである。その際注目すべきなのは、宗教書を多く編纂・出版したカルヴァン派ヒューマニスト印刷業者の営利的商業主義がそこに関与した可能性が高いと推測される点である(清水)。

以上のように研究成果は多岐にわたるが、それぞれさらなる実証的検証と進展の余地があり、今後のこの分野の研究を進展させる上での基礎たるものとして評価できる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

1. 由井哲哉、『ロミオとジュリエット』における時間構造、フェリス女学院大学文学部紀要、査読無、45、2010、213-229
2. 勝山貴之、カトリック穏健派とプロテス

- タント遵法者—アンソニー・マンディ  
と『サー・トマス・モア』、主流、査読  
有、71、2009、1-20
3. 清水徹郎、シェイクスピア、古典と民衆  
— 詩人・劇作家について、日本英文学  
会第 81 回大会 Proceedings、査読無、  
—、2009、149-151
  4. 井出新、エリザベス朝道徳劇とプロテス  
タント聖人の誕生、フェリス女学院大学  
文学部紀要、査読無、44、2009、57-74
  5. 篠崎実、 “Conceal me what I am” —  
シェイクスピア喜劇の男装するヒロイ  
ンたちと反劇場論、関東英文学研究、査  
読有、38、2009、103-119
  6. 篠崎実、An “Unsexed Queen and a  
“Nourish-Father” : Historicizing  
*Macbeth*、人文研究、査読有、38、2009、  
23-40
  7. 勝山貴之、カトリック穏健派と詩的想像  
力—サウスウェルとコンスタブルをめ  
ぐって主流、査読有、70、2008、1-18
  8. 由井哲哉、Robert Greene の修辞学 *The  
Card of Fancy* における「遅延は危険」  
の意味、*Shakespeare News*、査読有、48、  
2008、4-13
  9. 村井和彦、Shakespeare の Catechism、  
九大英文学、査読有、50、2008、179-198
  10. 勝山貴之、Robert Parsons の A  
Conference about the Next Succession  
to the Crown of England—1590 年代の  
イングランドで弾圧の対象となった書  
物に見る政治と宗教、同志社大学英語英  
文学研究、査読無、81-82、2008、25-49
  11. 由井哲哉、トマス・ロッジ『アメリカの  
真珠』におけるロマンスと残酷なリアリ  
ズム、言語文化論叢(WORD AND ACT)、査  
読無、13、2008、12-19
  12. 竹村はるみ、シェイクスピアは蘇るの  
か? — 評伝研究の現在、*Shakespeare  
News*、査読有、47.2、2008、12-19
  13. 村井和彦、祈りのドラマツルギー—『リ  
チャード三世』における宗教と政治、文  
学研究、104、2007、29-49
  14. 由井哲哉、不信の宙吊り—ピール『老  
婆の冬物語』の構造、言語文化論叢(WORD  
AND ACT)、査読無、11、2007、131-144
- [学会発表] (計 13 件)
1. 清水徹郎、マーロウの牧歌と 16 世紀の  
印刷本ギリシア詞華集、日本英文学会第  
82 回大会、2010 年 5 月 30 日、神戸大学
  2. 竹村はるみ、井出新、他、(セミナー) ロ  
マンティック・リバイバル— 騎士道ロ  
マンズとエリザベス朝文学、第 48 回シ  
ェイクスピア学会、2009 年 10 月 4 日、  
筑波大学
  3. 由井哲哉、『ロミオとジュリエット』に  
おける“time paradox”と時間構造、2009  
年 10 月 4 日、筑波大学
  4. 齋藤衛、清水徹郎、他、(シンポジウム)  
コモン・リーダーは復権できるか、日本  
英文学会第 81 回大会、2009 年 5 月 30  
日、東京大学
  5. 佐藤達郎、他、(セミナー) エリザベス朝  
後期の文学と政治風土、第 47 回シェイ  
クスピア学会、2008 年 10 月 12 日、岩手  
県立大学
  6. 竹村はるみ、他、(シンポジウム) 近代初  
期出版文化とイギリス文学— 知の流通  
革命、日本英文学会第 80 回大会、2008  
年 5 月 24 日、広島大学
  7. 竹村はるみ、 “O amice, amicus nemo”  
— スペンサー/ハーヴィの往復書簡集  
における文学的友情神話、京大英文学会、  
2007 年 11 月 10 日、京都大学
  8. 山田雄三、「ダイドー物語」の 2 つの系  
譜、関西シェイクスピア研究会 9 月例会、  
2007 年 9 月 23 日、大阪大学
  9. 井出新、ピューリタニズムとナショナリ  
ズム— 初期近代イギリス文学を中心に  
(十六世紀イギリス演劇における殉教  
者と国家意識の形成)、日本ピューリタ  
ニズム学会第 2 回研究大会、2007 年 6  
月 23 日、聖学院大学
  10. 中野春夫、篠崎実、他、(シンポジウム)  
エリザベス朝演劇と階級制度、日本英文  
学会第 79 回大会、2007 年 5 月 19 日、慶  
應義塾大学
  11. 篠崎実、竹村はるみ、清水徹郎、他、(セ  
ミナー) エリザベス 1 世の表象、2006  
年 10 月 9 日、東北学院大学

〔図書〕(計3件)

1. 山田雄三、村井和彦、他、英米文学の可能性玉井暉教授退職記念論文集、2010、896
2. 冬木ひろみ、篠崎実、清水徹郎、他、ことばと文化のシェイクスピア、早稲田大学出版部、2007、309
3. 楠明子、井出新、篠崎実、清水徹郎、他、シェイクスピアとその時代を読む、研究社、2007、249

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

清水 徹郎 (SHIMIZU TETSURO)  
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授  
研究者番号：60235653

### (2) 研究分担者

村井 和彦 (MURAI KAZUHIKO)  
大阪大学・大学院人文科学研究院・教授  
研究者番号：40174255

勝山 貴之 (KATSUYAMA TAKAYUKI)  
同志社大学・文学部・教授  
研究者番号：30204449  
(H20→H21：連携研究者)

竹村 はるみ (TAKEMURA HARUMI)  
立命館大学・文学部・准教授  
研究者番号：70299121  
(H20→H21：連携研究者)

山田 雄三 (YAMADA YUZO)  
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授  
研究者番号：10273715  
(H21：連携研究者)

井出 新 (IDE ARATA)  
慶應義塾大学・文学部・教授  
研究者番号：30193460  
(H20→H21：連携研究者)

篠崎 実 (SHINOZAKI MINORU)  
千葉大学・文学部・教授  
研究者番号：40170881  
(H20→H21：連携研究者)

由井 哲哉 (YUI TETSUYA)  
フェリス学院大学・文学部・教授  
研究者番号：50251335  
(H20→H21：連携研究者)

佐藤 達郎 (SATO TATSURO)  
日本女子大学・文学部・准教授  
研究者番号：10283194  
(H19以降参加)

### (3) 連携研究者

前沢 浩子 (MAEZAWA HIROKO)  
獨協大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：90219262  
(H20以降参加)

### (4) 研究協力者

玉泉 八州男 (TAMAIZUMI YASUO)  
日本学士院・会員

野崎 睦美 (NOZAKI MUTSUMI)  
東京工業大学・名誉教授